様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３４３１０
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ１２８４７

研究課題名（和文）東アジアにおける文化フロー―文化産業と文化政策の視点から

研究課題名（英文）Asian Cultural Flows: Creative Industries and Cultural Policies

研究代表者
河島　伸子（Kawashima, Nobuko）

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：２０３１９４６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、東アジアにおいてトランスナショナルに文化・芸術が流通している現象につき、それを推進（または抑制）する経済的背景、文化政策的要因を分析することを通じ、文化の質的変容と社会における相互理解の進展を検討するものである。従来の人文学研究では、文化の内容そのもの、あるいはその「受容、消費」を中心とし、その背景にある芸術・文化産業の経済的・産業的特徴、企業の経営・マーケティング戦略、文化政策への考察は不足している。本研究は、文化政策、文化産業、グローバル文化を専門とする国際的研究チームにより文化フローの形成要因を明らかにし、文化と社会の変容に迫るものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究成果として刊行したKawashima and Lee eds, Asian Cultural Flows, Springer, 2018では特に、クール・ジャパン戦略を掲げつつも文化政策に不熱心な日本、1990年代後半より文化政策を大幅に増強し海外展開を図り始めた韓国、海外からの文化流入に一定の歯止めをかける中国など、発信・受信国の多様な文化政策が、海外発信力のある文化の「生産」とそのフロー（流通）にどのような影響を持つのかを分析し、文化の越境・グローバル化を論じた点、大きな意義を持つものと考えられる。国際的な出版社より出しており、今後影響力を持って行くことが期待できる。

研究成果の概要（英文）：The phenomenal spread of popular culture from Japan since the 1990s and from South Korea in recent decades in Asia is now well known and documented. However, the majority of the existing literature pays little attention to the economic and political forces that have triggered cultural flows in Asia. This study investigates the actual processes through which culture has flowed among Asian nations. We have had three focuses for examination: national and local governments' cultural policies, the strategies of the creative industries, and the consumers' demand for, and engagement with, cultural products of various origins outside of their own countries.

研究分野：文化政策

キーワード：文化政策　文化フロー　創造産業　メディア　アジア　ポピュラー文化

１．研究開始当初の背景

テレビドラマ、アニメ、マンガ等の日本のポピュラー文化は 1990 年代から香港、台湾、韓国等のアジア諸国において人気を博すようになったが、その後、韓国のポピュラー文化（韓流）が日本を追い抜き首位的地位を誇るようになった。特に東南アジア、中国において韓国のポピュラー文化は圧倒的な数のファンを獲得している。

文化・芸術の研究において、従来、人文科学の領域では、このようなアジア地域における国境をこえた文化消費のあり方に注目し、各国のポピュラー文化が受け取り側の社会にどのような影響をもたらしてきたか、そしてアジア地域において新たなアイデンティティ、モダニティが形成されているか、を論じるカルチュラル・スタディーズの視点が主であった。

これらが意義を持つことは言うまでもないが、ここに経済学、政策学的視点を持ち込み、ますます進展する文化の越境現象、さらにはグローバル化を進める政策、経営のあり様を理解することは、文化的グローバル化の本質に迫るためには必須であると思われた。すなわち、文化の「生産」と「流通」を基礎づける経済構造と政策に着目する必要があった。

２．研究の目的

本研究は、東アジアにおいてトランスナショナルに文化・芸術が流通している現象につき、それを推進（または抑制）する経済的背景、文化政策的要因を分析することを通じ、文化の質的変容と社会における相互理解の進展を検討するものである。従来の人文学研究では、文化の内容そのもの、あるいはその「受容、消費」を中心とし、その背景にある芸術・文化産業の経済的・産業的特徴、企業の経営・マーケティング戦略、文化政策への考察は不足している。文化フローを生み出す「生産」「流通」に対して社会科学的アプローチを加えて分析することは、文化フローの本格的理解に不可欠である。本研究は、文化政策、文化産業、グローバル文化を専門とする国際的研究チームにより文化フローの形成要因を明らかにし、文化と社会の変容に迫るものである。

本研究で特に重要と考えるのは、文化を送り出す側の国の文化政策、産業政策、文化を受けとる側の国の文化政策、産業政策、そしてメディア産業の戦略、各国のメディア消費者の嗜好と行動、メディア機器・技術の発達度合いとその普及度である。

３．研究の方法

上述のような目的をもつ本研究では、異なる背景を持つ研究者たちで集まり議論をぶつけ合う研究会の定期的開催がもっとも重要な場となる。申請者と３名の研究協力者たち（全員海外の共同研究者で科研費への応募資格がないため、この位置づけとなる）と、このチーム外の研究者を招き、各回に次のテーマについての議論を深めていった。第１回目は、文化産業における「アジア・モデル」の探求、２回目はアジアにおける文化政策の特徴と文化フローのメカニズムの解明、３回目は文化フローによる社会、文化の変容の分析である。各回、これらに関する個別の報告、全体討論を繰り返し、報告は論文化・蓄積していった。2016 年（２年度）には ICCPR ソウル大会でそれまでの総括をするパネルを企画し、互いの報告および議論の場とした。なお、海外研究協力者のうち１名が研究期間最終年に急死するという不測の事態があった。研究成果として刊行した書籍のための原稿は既に完成していたため、そのまま掲載した。

４．研究成果

もっとも重要な研究成果は下記の図書リスト１にある共著書（Kawashima and Lee eds, Asian Cultural Flows, Springer, 2018）を出せたことである。アジアにおける日本や韓国のポピュラー文化普及については、従来は、カルチュラル・スタディーズ、批判的メディア学の視点から論じられてきたが、産業や文化政策が文化のフローに対して果たした役割を論じるものはほとんどなかった。産業面から分析した先行研究には、文化産業の実務者たちを取材し、日本の文化産業とアジアを研究してきた Otmazgin, N の一連の著作（単著に *Regionalizing Culture*, University of Hawaii. 2013）があるものの、文化政策への視点には欠けていた。本書では特に、クール・ジャパン戦略を掲げつつも文化政策に不熱心な日本、1990 年代後半より文化政策を大幅に増強し海外展開を図り始めた韓国、海外からの文化流入に一定の歯止めをかける中国など、発信・受信国の多様な文化政策が、海外発信力のある文化の「生産」とそのフロー（流通）にどのような影響を持つのかを分析し、文化の越境・グローバル化を論じた点、大きな意義を持つものと考えられる。英文での出版であり、日本国内でどのように読まれるかはわからないが、国際的な出版社より出しており、ウェブ検索で各章にもあたるように設計されているので、今後影響力を持って行くことが期待できる。

本書の内容は多岐にわたり、以下のような章立てとパートごとの構成をとっている。原語は英語であるが、本報告書では日本語で示している。

第一部　政府と文化フロー：各国の文化政策と都市戦略

１章　ソーシャルメディア時代における韓国の新たな文化政策
２章　「クール・ジャパン」と創造産業：日本の商業的ポピュラー文化産業に対する経済政策を問う
３章　アジア的かつグローバル？　2020 年のオリンピック、パラリンピック大会以降も見据えた日本と東京の文化ブランディング
４章　コントロールとディスラプションの間で：シンガポールと香港におけるニュース報道と文化フロー
５章　韓流文化、アジアとの出会いと文化政策

第二部　文化フローの生成：アジアの創造産業
６章　展覧会はどのように「フロー」するのか：政府、ミュージアムと台湾の特別展
７章　文化フローとグローバル映画産業：地域文化としてのアジアとヨーロッパの比較
８章　文化輸出と中国本土市場におけるクリエイティブ戦略と連携
９章　台湾のポスト孔子主義的テレビドラマ：白い巨塔と「黒と白」の比較

第三部　需要、受容とエンゲージメント：アジアにおける文化フローとメディア消費者
１０章　タイのテレビドラマ、アジアにおける新たなメディア循環のプレイヤー：タイにおける「フルハウス」の事例分析
１１章　「このフォーラムがどれほど日本と関係するか知っていますか」オンライン上のヤオイマンガ
１２章　YouTube 上の音楽流通：アジアとヨーロッパにおける音楽チャートの比較
１３章　台湾における日本と韓国のポピュラー文化、アイデンティティ

以上の章すべてを紹介することはできないが、研究代表者自身の執筆章は次のような内容を持つ。まず日本のコンテンツ産業政策が近年どのように発展してきたか、そしてクール・ジャパン政策が中央省庁組織をまたいで進められるようになったのか、背景と発展過程を整理した。その上で、クリエイティブ産業政策としては貧弱なものであること、実際のところ文化的輸出の実績も乏しいことを指摘し、しかしながら特に経済産業省を中心とする産業政策としては、グローバルに見られる創造産業政策の流行をむやみに追いかけることなく、ポピュラー文化産業の経済規模とその外部効果について実証できるのかどうかを注視するという、ある意味健全な政策スタンスである、と論じた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　３件）

1. 河島伸子「日本食のグローバル化と模倣食品問題」『文化経済学』14, 4, 1-19, 2017. 査読あり
2. Kawashima, N. "Cool Japan' and Creative Industries: An Evaluation of Economic Policies for Popular Culture Industries in Japan, in Kawashima, N and Lee, H-K (eds), *Asian Cultural Flows: Cultural Policies, Creative Industries, and Media Consumers*, Springer, 2018.　査読なし
3. Kawashima, N ‘Film Policy in Japan—An Isolated Species on the Verge of Extinction?’ *International Journal of Cultural Policy*, 22,5, 787-804, 2016.　査読あり
4. Kawashima, N ‘Cultural Policy Regimes in East Asia’, in James Wright (ed),*International Encyclopedia of Social and Behavioral Sciences*, Elsevier, 2015, 453-459.　査読なし

〔学会発表〕（計　３件）

1. Kawashima, N. ‘Japanese Food and Counterfeits: Towards Export Strategy?’, Association of Cultural Economics International, Melbourne, 2018.
2. Kawashima, N. ‘Business Models of the Media Industries—A New Direction?’, International Conference on Cultural Policy Research, Seoul, 2018.
3. Kawashima, N, ‘Evaluation of Cool Japan’, Roundtable ‘Cultural Flows and Cultural Policies in Asia’, International Conference on Cultural Policy Research, Seoul, 2016.

〔図書〕（計　２件）

1. Kawashima, N and Lee, H-K (eds), *Asian Cultural Flows: Cultural Policies, Creative Industries, and Media Consumers*, Springer, 2018.

2. Hill, J. and Kawashima, N (eds), *Film Policy in a Globalised Cultural Economy*. Routledge, 2017.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：Hye-Kyung Lee
ローマ字氏名：ヘギョン・リー

研究協力者氏名：Lorraine Lim
ローマ字氏名：ロレイン・リム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。